クローズアップ「図書館ガイダンス」

坂本　翼　塩津哲子

1　はじめに

関西大学図書館では、１年を通して学部学生向けの各種ガイダンスを実施している。

日本の小中高等学校においては、図書館の利用方法についての指導を受ける機会は今のところほとんどないと思われる。しかし、大学では、図書館利用方法に習熟し、必要な情報を効率的に収集できるかどうかは、学習を進めていくための重要なポイントである。さらに、これからはインターネットなども含めた広い意味での情報リテラシーが学生一人ひとりに求められる。その意味で図書館が実施するガイダンスにかかる責任も大きいし、今後その内容をより良いものにしていく努力を怠ってはならないだろう。ここでは、前半で図書館が行っているガイダンスの概要を述べ、後半では、それらのうち主に「文献の探し方」ガイダンスを中心にして、その問題点と今後の課題について考えてみたい。

2　ガイダンスの概要

現在実施しているガイダンスの種類は下記のとおりである（資料１）。初歩的なものから段階を追って学べるような構成になっている。これらについては、「図書館利用案内一覧」を作成し、新入生オリエンテーション参加者に配布するとともに図書館各カウンターに置いている。また、全専任教員には、３月下旬に補足説明等をつけた上で送付している。

(1)　新入生オリエンテーション

毎年４月の入学式翌日から授業開始日前日までの新入生指導行事期間（通常３日間）に、各学部の教室を会場に学部毎に実施する。会場数は学部の教室事情により１～４で、各会場毎に図書館から職員３名程度、教員１名が出向く。最初に教員から学生の図書館利用を促進するような内容で約10分自由にお話しいただき、その後、図書館作成のビデオ『知識と情報へのアクセス』を上映。これにより新入生は関西大学図書館のアウトラインをつかむ事ができる。上映後、当日配布の小冊子『図書館利用案内』に沿って、建物の概要、図書の借り方などについて職員から10分ほど説明を加え、終了となる。所要時間約40分。平成11年度に限ると出席率は、多い学部で90％以上、少ない学部で20％程度である。

（資料１）

ガイダンスを受けよう

図書館を上手に利用していただくために、各種ガイダンスを実施しています。

- **新入生図書館ツアー**
- **KOALA・KULの検索方法**
- **CD－ROMの検索方法**
- **レポート・卒論のための資料の探し方**
  （ゼミ単位でも個人でも受けられます）
- **書庫ガイダンス（３・４年次生対象）**

案内のプリントを各カウンターに置いていますのでご覧ください。

パンフレット「図書館利用案内」から抜粋

(2)　図書館ツアー

授業開始日から１週間の間、毎日４回図書館ツアーと称した見学会を行う。新入生オリエンテーションにおいてビデオと口頭説明で知った内容を今度は実際に各自の目で確認してもらおうという趣旨である。館内放送により、参加希望者には集合場所に集まってもらう。参加者が多い時は、15名程度を１グループとして、各グループを１名の職員が案内する。所要時間は約１時間。３階の一般閲覧室、２階の開架閲覧室、１階のレファレンス室をまわり、各階の機能や受けられるサービスの違いなどを説明する。さらに、図書館ツアーでは、学部学生が普段入れない地階の書庫も案内する。書庫案内は大変好評で、整然と並ぶ膨大な図書は、ツアー参加者に強い印象を残している。平成11年度の参加者数は222名。

(3)　「蔵書検索システム（KOALA）の使い方」ガイダンス

図書館ツアー実施週に続く、次の約10日間、１日３回、２階開架閲覧室の蔵書検索コーナーで実施する。所要時間約30分。館内放送による参加呼びかけは、図書館ツアーと同様である。参加者にはキーボ

ードを叩いて実習してもらう。著者名、書名、テーマなどから図書を実際に検索する。この蔵書検索システムのガイダンスは、５月以降も12月まで、希望者があれば随時行うことにしている。平成11年４月の参加者数は159名。

(4) 「CD-ROMの使い方」ガイダンス

５月と９月にそれぞれ１週間毎日２回、１階CD-ROM検索コーナーで実施する。所要時間約１時間。こちらも参加者に実際に検索してもらいながら『雑誌記事索引』『J-BISC』『朝日新聞記事データベース』の３種類のCD-ROMを説明する。参加者の希望により、説明するCD-ROMを変えることもある。平成11年度の参加者は62名。

(5) 「文献の探し方」ガイダンス

以上、述べてきた各種ガイダンスの総仕上げになるのが、「文献の探し方」ガイダンスである。

ア　文献の探し方１

このガイダンスの目的は、文献の探し方についての基本的な知識の習得であり、ゼミ・クラス単位で実施する。ゼミレポートや卒業論文を作成する３、４年次生の受講が多いが、最近では１、２年次生の受講も珍しくない。平成11年度の参加者は1192名。なお、３、４年次生については、入庫案内も合わせて受講する場合が多い。

・受講単位

ゼミ・クラス単位。または同じ分野を学習するグループ単位。

・申込方法

事前申込。「ガイダンス申込書」に希望日時、人数、重点項目等を記入してもらう。

・実施時期

前期・後期授業開講中。

・実施場所

図書館ホール（100人収容可能）を利用。ホールでの説明の後、レファレンス室の案内を行う。受講者が２～３人などかなり少ない場合はCD-ROMコーナーで行うこともある。

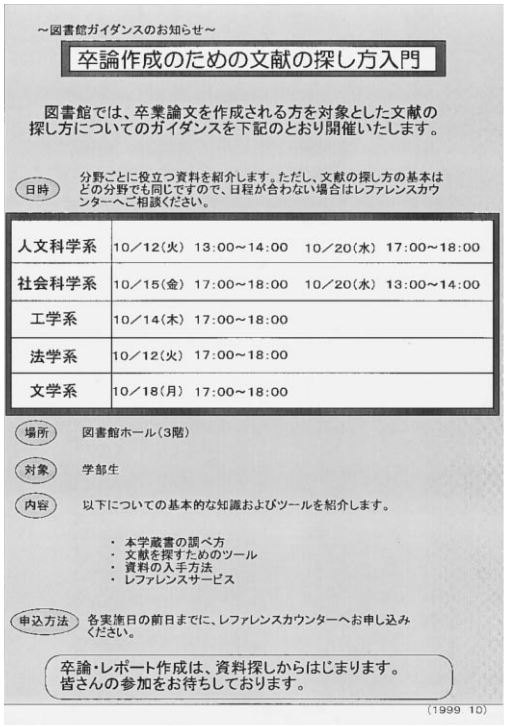
・所要時間

約１時間（ホールでの説明約45分。レファレンス室の案内約15分を目処)。申込者のゼミ時間を利用して行う場合が多い。

・説明方法

ノートパソコンにあらかじめプレゼンテーション用ソフトを使用してシナリオを作成しておき、それを各担当者が共用している。ただし、例としてあげる図書や論文は学部やゼミによって取り替えている。当日は、ノートパソコンとプロジェクターを接続し、スクリーンに投影された画面に沿って説明する。説明中、適宜画面を切り替え、CD-ROMサーバーやインターネットに接続し、実際に検索してみせる。さらに、『学術雑誌総合目録』やカレント雑誌と製本雑誌をセットにして回覧するなど、説明にメリハリをもたせるようにしている。ガイダンス終了後、

（資料２）館内掲示ポスター



～図書館ガイダンスのお知らせ～

卒論作成のための文献の探し方入門

図書館では、卒業論文を作成される方を対象とした文献の探し方についてのガイダンスを下記のとおり開催いたします。

日時　分野ごとに役立つ資料を紹介します。ただし、文献の探し方の基本はどの分野でも同じですので、日程が合わない場合はレファレンスカウンターへご相談ください。

人文科学系	10／12(火) 13:00～14:00　10／20(水) 17:00～18:00
社会科学系	10／15(金) 17:00～18:00　10／20(水) 13:00～14:00
工学系	10／14(木) 17:00～18:00
法学系	10／12(火) 17:00～18:00
文学系	10／18(月) 17:00～18:00

場所　図書館ホール(3階)

対象　学部生

内容　以下についての基本的な知識およびツールを紹介します。

・本学蔵書の調べ方
・文献を探すためのツール
・資料の入手方法
・レファレンスサービス

申込方法　各実施日の前日までに、レファレンスカウンターへお申し込みください。

卒論・レポート作成は、資料探しからはじまります。
皆さんの参加をお待ちしております。

(1999 10)

（資料３）分野別レファレンスツール一覧

	共　通	人文科学系	社会科学系	工　学　系	文　学　系	法　学　系
実施日時		6　／14（月） 13：00−14：00 6／17（木） 17：00−18：00	6／14（月） 17：00−18：00 6／18（金） 13：00−14：00	6／16（水） 17：00−18：00	6／18（金） 17：00−18：00	6／15（火） 17：00−18：00
図書	J-BISC KOALA					
雑誌論文	雑誌記事索引 洋雑誌目次検索	ERIC Sociofile PsycLIT 地理学文献目録 教育研究論文索引	経済学文献季報	文速 CA	国文学年鑑	法律判例文献情報
新聞記事	朝日新聞		日経新聞４紙			
その他の CD-ROM	Global Books in Print on Disc	農業集落カード	有価証券報告書 CD-JOINT IBSS		国歌大観 Electre Biblio VLB-Aktuell	リーガルベース
オンライン情報検索	日経テレコン（DIALOG）			JOIS	国文研データベース	（LEXIS）
その他	学術雑誌総合目録（NACSIS Webcat）	（Historical Abstracts）		Periodical Title Abbreviations.	東洋学文献類目	判例集
	調査研究・参考資料目録 その他分野ごとに目録、情報を適宜紹介				英米文学研究文献要覧 フランス語フランス文学研究文献要覧 ドイツ文学研究文献要覧	
	相互利用：学内にない文献の入手方法					

配布資料　冊子「文献の探し方」

実施記録を「ガイダンス申込書」に記入し、担当者間の情報共有を図っている。

・説明内容

『雑誌記事索引』、『学術雑誌総合目録』、『関西大学蔵書検索システム（KOALA）』、『CD-HIASK（朝日新聞記事データベース）』、『NACSIS　Webcat』などを使って、図書、雑誌論文、新聞記事を探し入手するまでの方法を説明。その他に相互利用サービスについての説明やオンライン情報検索の案内も併せて行う。

内容や時間配分は、申込者の要望（例えば、新聞記事の探し方に重点を置いてほしい。CD-ROMの実習を行いたい）により柔軟に対応している。

イ　文献の探し方２

「文献の探し方１」と同じ内容と時間配分で、こちらは個人で申込をし、受講するガイダンスである。ゼミで申し込んでいたが、当日受講できなかった学生やゼミに所属していない学生が対象である。平成10年度から開始し、平成11年度には６月と10月に７回ずつ実施した。説明の都合上、人文科学系（２回）、社会科学系（２回）、工学系（１回）、法学系（１回）、文学系（１回）と分野別に枠を設定（資料２）。いずれの分野も、図書、雑誌論文、新聞記事、相互利用、オンライン情報検索の説明を基本とする。各分野共通のレファレンスツールとその分野ならではのレファレンスツールを紹介する（資料３）。平成11年度の参加者は103名。

(6)　入庫案内

関西大学図書館では、原則として学部学生の書庫への入庫を認めていないが、文科系３、４年次生及び工学部４年次生で、卒業論文作成のため入庫が必要な場合に限り、この入庫案内を受けることを条件に、期限付入庫検索許可証を発行している。所要時間30分。平成11年度受講者は3129名。

３　問題点及び今後の課題

(1)　参加者数に関して

新入生オリエンテーションの場合は参加率90％以上という学部もあるが、その他のガイダンス、例えば図書館ツアーにしても蔵書検索システムの利用案内にしても新入生数約6300名から見ると、まことに少ない。結局このことは、図書館側の意図する段階的な受講も十分実現していないことを示しているだろう。４年次生になって初めてCD-ROMの検索をするという学生も少なくない。

参加者を増やすには、動機づけと広報について考える必要がある。動機づけについては、図書館自身のみで行うのは難しいように思う。やはり授業の中で教員からガイダンス受講をすすめてもらったり、図書館で資料を使って調べる課題を出してもらい、それに先立ちクラス単位でガイダンスを受けるというような形が理想的であろう。

広報については、Ａ４版１枚の印刷物「図書館利用案内一覧」を作り、館内各カウンターに置いている。また、館内へのポスター掲示、図書館ホームページでの紹介、学内の電子掲示システムを利用して各学部のディスプレイへも情報を流している。しかし、それぞれにどちらかといえば地味な内容で、どれほど人の目を引いているかと言われれば、いささか心もとない。もっと訴求効果の高い広報ができないか検討する必要がある。

(2)　「文献の探し方」ガイダンスについて

ア　時間の制約

問題点として、まず第１に挙げたいのは、１回60分限りのガイダンスでどこまで理解してもらえるか、どれほどの効果があるか、という点である。１回限りのことなので、説明する側としては、ついついあれもこれもと盛り沢山に詰め込んでしまう。しかも前述のように図書館ガイダンスの段階的受講は実現しておらず、蔵書検索システムすら余り使ったことがない学生がちらほらいたりすると、『雑誌記事索引』や『NACSIS Webcat』と本学の蔵書検索システムと混同しないかと心配になる。さらに、ガイダンスの目的は頭で理解するだけでなく、実際に学生一人ひとりが誰の援助も受けることなく各種検索システムや参考図書を使いこなし、必要な図書、論文などを入手できるようになることだから、なおのこと、実習のない説明だけでは不充分といわねばならない。しかし、ゼミ・クラス単位でその授業時間の貴重な１回分をガイダンスに当ててもらうという現在のやり方を続ける限り、時間の制約は如何ともしがたい。できるだけ内容をしぼり、重要項目を丁寧に説明していくしかないだろう。

イ　授業との連携

法学部教員からの希望で、次のようなガイダンスを行ったことがある。授業科目は１年次生の一般演習、場所は図書館内のグループ閲覧室（３階）、ガイダンス担当者は、あらかじめ教員から指示された

判例集とパソコン及びプロジェクターを用意して授業に参加。最初教員が授業を進め、途中判例集に話しが及んだところで、図書館職員にバトンタッチ。図書館で判例集はどのように整理され、配架されているか、見たいときにはどうすればよいかを説明。その後、「貸出・閲覧申込票」を配り、必要な判例集を１階のメインカウンターまで請求に行かせた。最後に用意したパソコンとプロジェクターで判例データベース『リーガルベース』の検索方法を説明した。

授業の流れの中での説明なので、学生にとっても興味が持てただろうし、理解しやすかったのではないだろうか。教員の協力がないと実施は難しいが、今後のガイダンスのあり方として検討してみる価値はあると思う。

ウ　新たな企画

上にも述べたが、ゼミ・クラス単位のガイダンスである「文献の探し方１」では、どうしても時間の制約があり、必要最小限のポイントを丁寧に分かりやすく説明するしかないが、個人向けの「文献の探し方２」では、図書館側としてかなり自由な設定が可能である。現在は分野別に１回60分で「文献の探し方１」と同様、説明のみの構成であるが、例えば、実習を中心にして各種インターネット上の情報検索なども加えて内容を充実させ、月曜日から金曜日まで毎日１時間、５回で修了、修了者には「図書館の達人証」を交付などというものを考えているが、どうだろうか。

エ　図書館ホームページなどの活用

現在、関西大学図書館のホームページには、「図書館の使い方（ビギナーズ編)」「文献の探し方」「図書館Ｑ＆Ａ」などの利用案内を載せている。他にも、「ネットワーク情報源」として様々なデータベースや各種機関へのリンクを張っている。

また、図書館では「How-Toシリーズ」という図書館利用方法について詳しく説明した印刷物をカウンター近くに用意している。これらに目を通し一つひとつ自分で試していけば、ガイダンスを受けなくても図書館の使い方について自習することは可能と思われる。

前項までに述べたようにガイダンス内容を充実させ、受講者を増やす努力を続けなければならないが、一方では現実問題として、ガイダンスを担当する職員数、実習する場所の確保等、種々の制約がある。それらをカバーする意味でも、図書館ホームページなどによる自学自習を積極的に学生に薦めたい。また、それにともない、図書館でも、より分かりやすい記述と最新の内容の掲載に努める必要があるだろう。

４　終わりに

一つのガイダンスを行うために要する労力は想像以上に大きい。例えば、「文献の探し方」ガイダンスの場合、当日は準備と片付けを含めて約１時間30分、事前のシナリオ作成、資料用意などの準備時間も相当必要である。ガイダンスが終わった後はかなりの疲労感があるが、同時に一つのことを無事やり遂げたという達成感も味わえる。また、ガイダンスを行うことで係員のスキルアップにつながっていることも確かであり、受講生の何らかのリアクションがあればやはり嬉しいものである。

図書館の資料は、使ってこそ価値がある。文献の探し方のポイントを知ることは、学習・研究においての最重要項目の一つである。

教員との連携、新たな企画、楽しくて面白かったと受講生に思わせるようなプレゼンテーション、ガイダンス担当者の能力アップなど、今後の課題も多い。充実した資料があり、能力のある図書館職員がいて初めて良いガイダンスができる。ガイダンス担当者が一丸となって課題を一つひとつクリアし、ガイダンスをより魅力あるものにしていきたい。

※ガイダンスの種類及び内容は平成11年度のもので掲載。

（さかもと　つばさ　閲覧参考課）
（しおつ　てつこ　前レファレンスサービス課
平成12年３月31日付退職）